

広徳寺通信

Letter from Koutokuji Temple 第21号



◆ お寺の玄関からお囃子の音が。

「今いのちあるは有り難し」とお経にあるように、かけがえのないいのちの尊さに感謝することから生まれたことばです。モノにあふれ、いつけんすると、ないモノのほうが珍しいように思えてしまう現代ですが、それはまやかし。裸で生まれきた人間は、また裸のまんまで死を迎えます。なくて当然だからこそ、あつて有り難い。有ることに慣れ、有ることが当然と思ってしまう。正しき道を踏み外し餓鬼（がき）同然。正しき道を踏み外し

みませむる餓の心に耐へ兼ねて
こをおもふ道ぞ忘れ果てぬる

(月清集)

お寺ニュース



2月22日 護持会総会



2月22日は護持会の総会でした。終わって大広間にて懇親会。参加された方、お疲れ様でした！

27年ぶりの大雪で墓地は？



記録的な寒さに加え、27年ぶりとも言われる大雪に見舞われました。皆さまも連日の雪かきに追われことでしょう。広徳寺の墓地も写真のように、お墓の頭を少し残すだけで、すっぽりと雪の中。来月のお彼岸のお寺参りまでにはどのくらい溶けるでしょうか。



3月16日は「春のお寺参り」です

3月16日は恒例の春のお寺参り。お彼岸会と涅槃会をお勤めします。雪も今よりはいくぶん溶け、春の兆しも見られる頃。たくさんのお参りお待ちしております。



曹洞宗
慈眼山

広徳寺



〒049-0162 北海道北斗市中央 2-3-14

TEL 0138-73-2032 FAX 0138-73-5500

✉ info@jigenzan.org www.jigenzan.org



寺こやよりお知らせ



自分を見つめる！！

寺こや坐禅塾

シンプルなあなたにいったんリセット！

日時：3月24日（土）

午後4時からはじまります
(始まる10分前にはお越し下さい。)

参加費：100円

※ どなたでもご参加いただけます。

※ 足を組めない方にはイスをご用意

しています。

上記日程以外でも坐禅の受付をしております。個人・団体問いません。まずはお気軽にお電話ください。

梅花講よりお知らせ

梅花流詠讃歌

講員さん随時募集してます！！

毎週 土曜日
午後 1時半
～
午後 3時半



曹洞宗宮城県宗務所の梅花流特別講習会に参加してきました！東日本大震災の被災地への追悼・復興への祈りが捧げられました。



◆ 総勢400人をこえる講員さんが集いました。



第18回 「お経の話 その4」

修証義

【しゅしょうぎ】

◆お経本の10頁です。

曹洞宗の教えの根本がしるされている『修証義』というお経について、前回お伝えしました。今回は、仏教徒にとってもっとも大切なことは何かについてお話しします。

曹洞宗目深経要集

生きるとは何か、死ぬこととは

お経の冒頭です。

【本文】

生を明らめ死を明らむるは仏家
一大事の因縁なり

【現代語訳】

こころの底から安心した日々を送るために、私たちがしなくてはならないもっとも大切なこと。それは、この世に生まれ、年齢を重ね老い、病にかかり、そしていずれは死を迎える人生を正しくみつめることです。



死亡率 100 パーセントの人間

人間の死亡率は 100 パーセント。どんなに医療技術が進もうと、人は遅かれ早かれ死に直面します。どんな人でも必ず訪れる事態に対して、どれだけの人がその準備をしているのでしょうか。「死ぬだなんて縁起が悪いことを…」とっていつも問題を先おくり。日本の教育も、算数や理科・国語など、生きるための手段を教えるばかりで、「なぜ生きるのか」「生きるということとは」といった人生問題を教えることはありません。仏教では、このような人生問題をとくに「生死」といいます。それでは、「生きるということ、死ぬということ（生死）」にどのように向き合えばよいのでしょうか。次回に続きます。

アリとキリギリス

冬支度をせずに、夏のあいだ遊んで暮らしたキリギリス。寒い冬に準備してきたアリ。その日かぎりの楽しみに興じても、それは冬にあっては何の腹のたしにもなりません。



ねはん 涅槃とキタマクラ

春のお寺参りでお勤めされる涅槃会。2月15日にお亡くなりになったお釈迦様をしのび、およそ2500年経った今この世で、私たちがそのみ教えに出会うことができたことに感謝するお参りです。お釈迦様はお亡くなりになったとき、頭を北にしてお顔を西に向け右脇を下にして涅槃に入りました。現在でもお亡くなりになった人のご遺体の頭を北にして安置しますが、こうした「北枕」の風習は、お釈迦様の涅槃のお姿に由来しています。

涅槃にまつわる詠
さんか 讀歌 (御詠歌) です。

大聖釈迦如来涅槃御和讃

【だいしょうしゃかによらいねはんごわさん】

拘戸那のほとり風おちて
流れはむせぶきさらぎの
望の月影きよけれど
はかなく雲にかげりゆく

双樹の沙羅に咲き満ちて
ま白き花は匂えども
散るを定めの花なれば
はらはら散りてすべもなし

